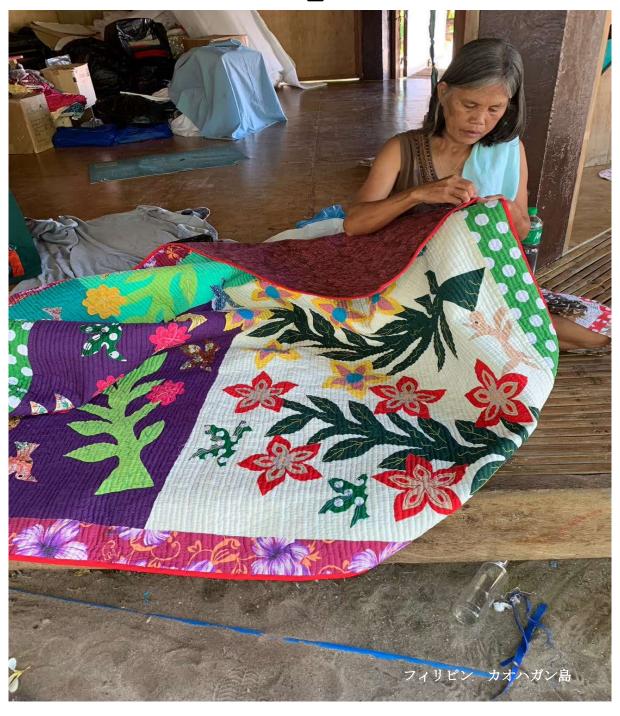
Annual Report





Japan Dental Mission

NPO法人ジャパン デンタル ミッション

Contents

代表理事挨拶	2
活動地紹介	3
海外活動報告	5
フィリピン共和国カオハガン島	5
大阪府歯科技工士会会報の記事(JDM 理事)	17
国内活動報告	18
国際理解教育~バヌアツ学習を通して~	19
海外活動参加者感想文	21
2023年度 海外活動予定	32
ジャパン デンタル ミッションについて	33
協力者名簿	34

代表理事 沢田 宗久

はじめに

JDM の活動は、1983年にバヌアツ共和国から始まり、今年で40年目になります。

1996年から始まったフィリピン・カオハガン島での活動は3月と11月の年2回行っていて今年で27年になります。

コロナ禍により活動拠点としていた国々がコロナ政策でこの3年間鎖国状態となり、残念ながら活動することが 出来ませんでした。

2022年11月よりフィリピン・カオハガン島をかわきりに、2023年3月と2度の活動を終え、延べ約50 0人の島民(カオハガン島以外の島民も含め)の歯の治療と入れ歯の作成、予防充填、小学校歯科健診を行いました。

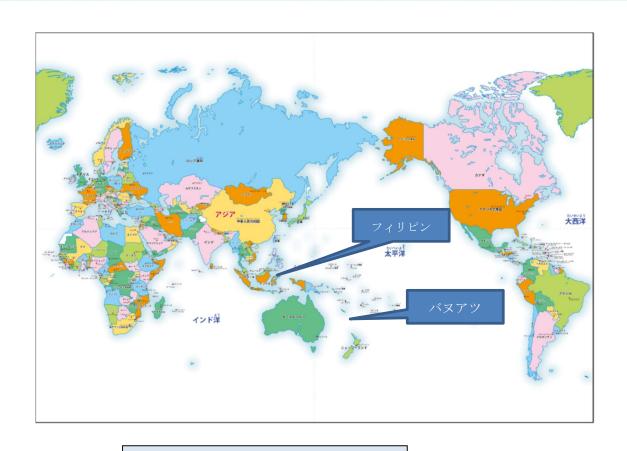
今年度は、7月11日からバヌアツ共和国・ペンテコスト島で活動を再開する予定です。

3年間のブランクがある為に、今後の活動がスムーズに行えるようにバヌアツ政府の保健省と連絡を取り合っています。歯科機材・歯科材料・ドネーショングッズ(歯ブラシ・タオル・鉛筆・クレパス・画用紙・サッカーボールなど)も現地に届ける予定です。

国内では、20年前から八尾市立西山本小学校、南山本小学校、そして数年前より八尾市立竹渕小学校において 学期ごとに、5年6年生を対象に「国際理解教育を深める」と題して出前授業を行っています。

こうして、毎年活動に行かせて頂きますのも皆様方の心温まる多大なるご支援の賜物と思い心より感謝しています。 今後共宜しくお願い申し上げます。





バヌアツ共和国











紹介:約83の島々から成り立つ

人 口:約29万人

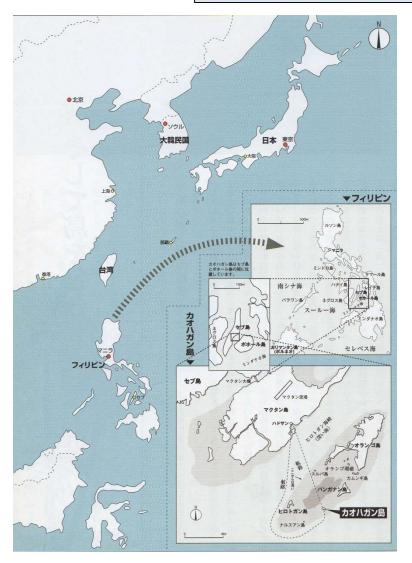
通貨単位: バツ (1バツ=約1円) 宗 教: ほとんどがキリスト教

平均寿命:70歳

生 産 物:コプラ (ヤシ)、牛肉

活動地:ペンテコスト島

フィリピン共和国





紹介:7,109の島々から成り立つ

人 口:約1億100万人

カオハガン島の人口は約650名

首 都:マニラ (ルソン島)

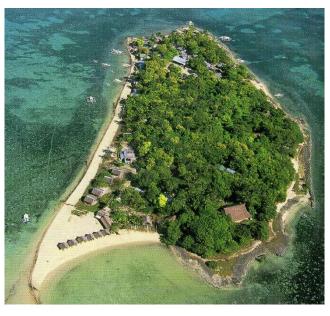
言語:フィリピノ語、英語、ビサヤ語

通貨単位:フィリピンペソ(1ペソ=約2.5円)

宗 教:ほとんどがキリスト教

平均寿命:71歳 生産物:バナナ

活動地:カオハガン島





海外活動報告

フィリピン共和国カオハガン島

場所 フィリピン共和国・カオハガン島

期間 2022年11月2日~11月6日

参加メンバー

(上段左から中辻孝一(T)佐々木正志(T)瀬野耕司(D) 上崎秀美(D)沢田宗久(D)木村拓紀(D)栗山雅行(V) (下段左から) 小西あゆみ(H) 三好京子(T) 倉橋朋子(H) 岡崎由依(H)菊島優香(H)吉村理湖(H)



活動内容

11月2日(水曜日)



3年ぶりにコロナで中止されていたフィリピンカオハガン島での活動が再開となった。

フィリピン・マクタン空港での大韓航空機のオーバーランにより、フライトが深夜便に変更を余儀なくされて、23時30に羽田空港に集合。遅い時間にも関わらず、D伊藤とD井口が差し入れを持参して見送りに来てくれた。マニラ空港で国内線を乗り継ぎ、10時すぎにセブ・マクタン空港に到着。カオハガンハウスのゆうこさん達が迎えに来てくれ、埠頭まで移動し、船でカオハガン島へ、天気が良かったが島に近づいたころから大雨になり船で暫く待機してからカオハガン島に、保健婦のエマさんが出迎えてくれた。事前ミーティングでエマさんの担当地域が変わって不在と聞いていたが、島民たちの強い要望によりカオハガンの担当にもどったそうです。

到着後昼食をとり 15 時 30 からバランガイホールで診療の準備をしながら、予約のあった 4 名の義歯用の印象をした。夕食時に発電機が壊れたと報告があった。



11月3日(木曜日)

発電機は別の小型のもので代用のため、単独のバキュームは使用せずに診療することに。 午前は一般診療(抜歯・充填・スケーリング・義歯の修理など) 午後からは一般診療と併行して小学校の 1年生から4年生までを健診し、フッ素塗布・抜歯・充填・シーラントを行った。



カオハガンの治療希望者が予測していたよりも少なく、カオハガンハウスのゆうこさんと村長さんと相談し、隣のパガンアン島の村長さんに連絡をとり、JDM が来ていることを知らせた。

11月4日(金曜日)



午前に小学校へのドネーションを予定していたが、雨のため午後に延期となり、午前は一般診療を行う。 雨のため、パガンアンの島民は数人、カオハガンの島民も数人だった。

午後の診療前に、D瀬野・DH 倉橋・カオハガンハウスゆうこさんと小学校の保健主任とミーティング。 コロナすぐは休校で小学校が再開してからは、小学校の判断で5.6年生だけ週1回フッ素洗口をしていたが、低学年のむし歯も多くなっており、これからは全学年に月曜日から金曜日まで毎日洗口することに。

午後から天候も回復し、D沢田・D木村・T 三好・DH 岡崎が小学校でドネーション、その後 DH 菊島・DH 岡崎・T 三好・T 佐々木がレッドコートで染色し歯ブラシ指導を行う。

天候が回復して、パガンアンの島民が歩いて来島しカオハガン・パガンアン共に多くの治療希望者が来る。

11月5日(土曜日)

学校も休みになり、朝からカオハガン・パガンアンの治療希望者の行列ができていた。カオハガンハウスゆうこさん・バランガイスタッフたちの判断で、カオハガン島民を先に治療し、その後パガンアンの島民を治療していくことに。

12時までに撤収予定だったが、13時頃まで治療を行い、14時撤収終了する。



14時過ぎから昼食、15時30からポントグで運動会、リレー・お菓子バトンリレー・玉入れ・綱引きを行う。









夕食後子供たちからダンスや歌・メッセージカードなど サプライズイベントがあり、3年間 JDM を待ち続けてくれていた島民の合唱に涙が止まらなかった。

11月6日(日曜日)

3時頃、東京組が先に出発し、6時頃 大阪組が島を出発し、無事帰国する。

小学校の健診で、低学年の乳歯や、第一大臼歯の崩壊が目立った。今までスナックタイムのあと小学校で 歯磨きをしていたが、コロナが始まってすぐは学校も休みでフッ素洗口も中止されたこともあり、崩壊 が進んだのではないかと推測されるが、高学年へと健診が進むにつれて奥歯が保存されていて、シーラ ントもしっかり残っている子も数人いた。これまでの活動が意味のあるものと実感でき今後崩壊した低 学年の歯も含め 子供たちの永久歯を守っていこうと思う。

今後、周辺の島への活動日の報告は、撤収日は入れずその前日にして、撤収作業をしながら、カオハガン 島民のみ治療をしたほうがよさそうです。

その判断ミスで、最終日の自由時間が無くなったことに初参加含め、メンバーに申し訳なく思っています。

全力で活動してくれた JDM メンバー・カオハガンのスタッフやゆうこさん・よしえさんに感謝です。ありがとうございました。

V栗山からの次への提案

バランガイホール内の電源配線が床を這っていると危ないので、天井を這わす。

リーダー総括

今回、コロナ禍の3年ブランク明けの再開

ボランティア1名、技工士3名、衛生士5名、歯科医師4名

合計13名の参加でした。

現地空港のトラブルによる出発便変更、接種証明、現地入国、帰国入国手続き

などの煩雑さを乗り越えてのミッションでした。

3年ぶりの診療に、カオハガン島のみならず他島からも沢山の方が来られ、出来るだけたくさんの方をと 全員一丸となり頑張りましたが最終日は時間延長するも、診られない患者さんが多数おられたことは、 残念でした。

そして、最終日子どもたちが楽しみにしている運動会です。

ポントグの砂上、子供達の張り切る笑顔が印象的でした。

幸い、全員体調トラブルもなく無事解散までこぎつける事ができたのは、参加者皆さんのお陰です。 拙いリーダーを支えていただきありがとうございました。

ではまたいつか、みなさん南の島で会いましょう。

ジョウちゃん (上崎)

データ

治療結果

	11/2日	3日	4日	5日	合計		
抜歯		52本	138本	95本	285本		
CR		23本	38本	35本	96本		
シーラント		17本	14本		31本		
sc		25人	22人	31人	78人		1
チェックアップ		34人	15人	1人	POV	島別受診者	
義歯 印象	3人	4人			7人	カオハガン	165人
義歯修理	1人	1人	5人	4人	11人	カオハガンスクール	79人
義歯セット		2人	1人		3人	パガンアン	71人
その他	1人		1人	1人	3人		
人数	5人	116人	117人	77人	315人	合計	315人

場所 フィリピン共和国・カオハガン島 期間 **2023**年3月18日~3月23日

参加メンバー

(上段左から) 倉橋朋子(H) 篠原充里(H) 斎藤あすか(H) 泉本明子(H)鈴木美乃里(H)原口明奈(H) 井上七穂(H) 池本美波(H)

(下段左から) 池本花梨(V) 崎山さん 田辺友基(V) 瀬野耕司(D) 沢田宗久(D)難波智津子(D)



活動内容

3月18日(土)

関空と成田から 出発しました。 関空からマニラの経由で荷物をすべてカッターで切られて中身をチェックされたが、すべて持ち込めるようになった。 マニラーセブで少し遅延はあったが、セブマクタン空港で無事成田メンバーとカオハガンのよしえさん トッペルさん サルメロさんと合流し カオハガン島へ。到着後夕食・ミーティングして就寝



3月19日(日)

バランガイホールに行くと多くの島外患者が押し寄せていた。メンバー全員で準備し 診療にはいる。 200人を超える患者リストができていた。週末に帰ってきている島民の治療を優先しながらも、できるだけ多くの患者さんを診るように全員で活動した。Dr 34 DH84 V24 で抜歯ルーム 充填ルーム クリーニングルーム 問診に分かれ治療していった。



3月20日(月)

今日も多くの患者さんが診療前から 並んでいた。カオハガンハウスのゆうこさんに整理番号でうまく 分けてもらって 抜歯のみ 充填のみ クリーニングのみに (抜歯 充填 クリーニングすべて希望す る人が多く、それでは多くの患者さんを診ることができないので、少しでも多くの人を診られるように 判断)

だが、抜歯のみ と 充填のみに偏って せっかく多くの衛生士がいてるので、途中から 抜歯とクリーニング 充填とクリーニング の組み合わせも可能にして、診療していった。

この日は 単独のバキューム 2 台が見つかったので、診療の質が上がって分業して治療していった。 夕食に 瀬野 \mathbf{D} からシャコの差し入れがあり、大きなシャコに 初参加のメンバーは喜んで食べていた。 夕食後、運動会の種目を相談する。



今日も朝から200人を越える患者さんが待っていた。9時からは 沢田D 田辺V 池本花梨Vが小学校ヘドネーションに 歯ブラシ タオル 鉛筆 ボール など他のメンバーは バランガイホールで 診療にあたる。







午後からは高学年の小学生の歯科検診も併行して行い、フッ素ジェルを塗布し、シーラント処置をした。 毎日時間をオーバーしていたが、全員で助け合い診療をしていった。

午後の診療の後片付けをしていたら、小学生の女の子が頭部のケガで瀬野Dが処置してくれた。 夜ごはんの後 以前の JDM の恒例行事?でもあった マンゴーパーティーを。沢田 D が差しいれして くれた

3月22日(水)







診療最終日 少し早めの8時30分ごろに 小学校で低学年向けに倉橋H 篠原H 原口H 斎藤H 鈴木H、泉本H、池本美波H、花梨Vでカバの媒体で保健指導し、その後1人5,6人の生徒を担当し、

個別歯ブラシ指導を行った。その後 バランガイホールに戻り、カオハガンの島民の治療をしながら、順 次撤収作業に入り、みんな手際よく作業していき 午前の時間内に完全撤収できた。





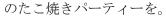






ランチの後は、各自アク ティビティを行い、夕方 にはポントグで運動会を 行った。

種目は リレー 今回初 の 背中を合わせて手を 組んでの 蟹さんリレー 玉入れ 綱引きを行った。 夕食後、最後のミーティ ングを行い 各自の頑張 りを労う。そのあと、恒例





今回は、天候に恵まれた。素晴らしい朝日と夕日 いつも の美しいカオハガンであった。

昨年の 11 月活動の後半に顔が腫れた妊婦さんの処置をし ていたのだが、その女性が生まれて間もないかわいい赤ち ゃんを連れて バランガイホールに見せに来てくれた。き れいな顔に戻り、素敵な笑顔であった。



初日にもうれしいことがあり、カオハガンの青年がクリーニング希望で来てくれた。検診していると、左の下の歯に私たちが処置した、シーラントが残っていて、むし歯もない きれいな状態を維持してくれたことに、この活動が意味のあるものだとあらためて感じられた。

カオハガンの常連ゲストのみきさんが ポントグでカオハガンの女の子たちとの 会話を教えてくれた。

島を出て、周りの人たちと比べて私たちは JDM に診てもらっているので、きれいな歯を保てていると。 とても恵まれたことだと。

コロナで JDM の活動が止まり、低学年の崩壊が進んでいると私が言った内容も伝えてくれていて、年長者の私たちが、弟や妹に歯磨きの大切さなどを伝えていかなければいけないと、言っていたそうです。 みきさんからその話を聞いて泣きそうになった。やってきてよかったと。

総括

大阪、東京からマクタン空港に集合し海路カオハガンへ。

翌日からの診療は、カオハガン以外の島からの患者も多く、毎日定刻に終わることはありませんでした。 少しでも多くの患者さんを診るために CR、抜歯は基本2本までとし、CRと抜歯を同日にはしないなど の制限をせざるを得ない状況で、それでも全ての患者を診れなかったのは残念でした。

カオハガンより周辺の島の患者が増えているのは JDM の活動が周辺の島にまで浸透し信頼されている 証です。

今回の参加者は初参加の方が多く、診療が始まるまでは若干の不安はありましたが、そんな不安は診療が始まるやいなや完全に払拭されました。

参加されたメンバーのスキルの高さと意識の高さには驚かされるほどでした。

また、倉橋さんは事前の周到な準備はもちろん、活動中は臨機応変に対応をして頂きまして大変助かりました。

加えて、カオハガンのスタッフの皆様の献身的な協力があって、この活動が成功したと思います。

日本にいるメンバーを含め、この活動に関わった全ての方に感謝すると同時に、この活動に参加できたことを大変誇りに思います。

皆様、本当にありがとうございました。

また、島でお会いしましょう。

瀬野耕司

データ

治療結果

	19日	20日	21日	22日	合計
抜歯	93本	123本	109本	25本	350本
CR	38本	52本	49本	8本	147本
シーラント	4人		35人	39人	78人
sc	48人	51人	56人	7人	162人
チェックアップのみ	1人		21人	37人	59人
その他	オープン		研磨	咬合調整	3人
人数	111人	109人	163人	56人	439人

島別受診者	
カオハガン	74人
カオハガンスクール	89人
パガンアン	87人
バンダノン	109人
ラプラプ	10人
ボホール	20人
オランゴ	19人
パシル	5人
カブラン	18人
ヒロトガン	2人
無記入	2人

大阪府歯科技工士会会報の記事(JDM 理事)

私のもうひとつの意

- ライフワーク編

海外歯科ボランティア -後編-

北大阪支部 田中 良明

前編では、海外の無医村地区での歯科医療を主体としたボランティア団体である「NPO 法人 Japan Dental Mission (以下 JDM に省略)」の活動についてお伝えさせていただきました。後編では、JDM の活動内容について私の経験談を元に簡単ですがお伝えしようと思います。(写真は 27 年前の私です)

ます、私が JDM の活動に参加したきっかけは、JDM に参加経験のある専門学校の先輩からのお誘いでした。当時、 私は本科生ではなく専攻科生だったのですが、単位のこともあったため校長先生に直訴したことをよく覚えています。

「海外に行きたい!」というだけの軽い気持ちで参加を決めましたが、実際に現地で活動してみると日本では考えられないようなハブニングが多く思いのほか大変でした。とはいえ、困ったときにはベテラン技工士の方に教えていただくなど、とても楽しく技工が出来ました。

現地で作製する技工内容は、即時重合レジンのフルデンチャー・パーシャルデンチャー (ワイヤー屈曲を含む)・咬合・デンチャーリライニングの仕上げです。割と一般的な技工の中でハブニングと思われるかもしれませんが、皆さんは屋外での技工を経験されたことはありますか?活動場所が海外なので日本と水の性質が違うこともありますが、屋外では気温や水温が高いことから石膏やレジンのコントロールが非常に難しいのです。一番大変だったのはデンチャーの研磨でした。写真を見てわかると思いますが、とにかくレーズが低すぎて(これは設置の問題ですが…)とてつもなく膝と腰が痛かったです。

色々と大変なこともありましたが、学生時代にチェアサイドで自分が苦労して 作製したデンチャーを喜んでもらった経験は何物にも変えがたいものでした。こ ういった事を経験したことがない方は経験する価値アリです。

技工作業の経験以外にも良い経験をたくさんしました。現地で寝食を共にする と、歯科技工士・歯科医師・歯科衛生士・ボランティアの関係性は限りなくフラッ

トになり、ボランティアをきっかけに、帰国後も親交を深めていく方もたくさんいらっしゃいます。もちろん私もそのひとりです。

現在は、海外での活動ではなく、事務的なサポートをしながら JDM でのボランティア活動を通して、地域や業種関係なく歯科関係者の方や歯科関係者以外の方との様々な出会いや経験をさせていただいています。

最初に参加したきっかけは単なる興味本位でしたが、今となってはライフワークと言っても過言ではありません。



※コロナ禍で長い間活動できていませんでしたが、2022 年 11 月にフィ リビン共和国カオハガン島での活動を再始動しました。再始動が決 定する前から待っていただいていた方がたくさんおられ、11 月は満 席となりました。2023 年 3 月の申込みはこれからですので興味があ る方はご連絡いただければと思います。



お問い合わせ先

メール: info@japandentalmission.org (※田中宛でお願いいたします)

ホームページ: http://www.japandentalmission.org



国内活動報告

日付	内 容
2022年	九州・熊本・八代南ロータリークラブと大阪船場ロータリークラブの協力で
4月13日(水)	八尾市立竹渕小学校内に花を植える事業に JDM がサポートを行う
5月11日(水)	
5月21日(土)	
6月15日(水)	八尾市立竹渕小学校において5年・6年生を対象に「国際理解教育~バヌアツ学習を
	通じて」と題して出前授業を行う
8月1日 (水)	大阪船場ロータリークラブにおいて、「バヌアツ歯科医療奉仕活動と奉仕について」と
	題して卓話を行う
11月16日(水)	八尾市立竹渕小学校において出前授業を行う
	バヌアツでの具体的な歯科活動やバヌアツの島民の生活や文化について授業を行う
2023年	八尾市立竹渕小学校において出前授業を行う
3月1日(水)	フィリピン・カオハガン島での歯科医療活動や島の子ども達との文化交流について授
	業を行う







国際理解教育~バヌアツ学習を通して~

~JDM の活動を知ることを通して~

八尾市立竹渕小学校

梢 隆幸 増田 久子

◎1年間の学習

事前学習として、インターネットや地球儀を使い「ヴァヌアツ」や「フィリピン」について調べることにした。国の場所や様子などの情報がでてきたが、子どもたちは、なんとなくは知ることができ、興味を持つことはできた。

1回目の授業ではヴァヌアツ・フィリピンの国旗や、暮らしの様子について話を聞いた。国旗の意味を知ることでヴァヌアツやフィリピンの国の特徴や歴史に触れることができた。肥沃な土地、そこに暮らす人々の生き方や誇りそして歴史が凝縮されていることに驚くと同時に、日本の国旗の意味も知りたくなったという感想も聞こえた。また、バンジージャンプの発祥の地であることにも興味を持った。

2回目の授業ではJDMの活動や現地の人々の暮らす様子などの写真を見せていただき、歯科医療支援活動への理解を深めた。大切なのは治療だけでなく、衛生環境が整っていない暮らしにどのように援助していくかということだ。虫歯の予防を指導することや、生活用品に関する支援の重要性は5年生の子どもたちにも理解ができたようである。そして自分たちの暮らしが満たされていることも実感できた。





3回目の授業では、これまでの授業の振り返りをし、 JDM の活動を通して、ボランティアに対する思いを話 していただいた。ボランティアについて考えるにはまだ まだ精神的に幼い部分もあったが、真剣な表情でお話し される姿や、その思いに触れ、自分たちなりにではあっ たが、真剣に受け止めていた。



◎子どもたちの感想から

- ・日本と違う国を学ぶのは、とても楽しいなと思いました。祭りがあったり、バンジージャンプがあったりしてバヌアツはいい国だなとも思いました。
- ・バヌアツは日本と違って電気も水も通ってなくて、自分だったらけっこう厳しい生活になると思いました。それに初めて行ったとき、歯の治療目的で行ってるのに白い目で見られたら、自分だったら繰り返し行こうと思った沢田先生はすごいと思いました。
- フィリピンの話を聞いて、自分の日本での暮らしがどれだけ楽なのか分かりました。フィリピンの子どもたちは、雨で家がぬれてしまうと自分の家でなくとも居力して助け合ったり、水がないから雨水で洗濯していたりして、大変だなと思いました。自分の暮らしを有難く思って、自分の取り組んでいる事をがんばろうと思いました。
 - 私たちはいつでも歯医者に行ける環境だから、いつ虫歯ができても「大丈夫」と思っていたけど今日の授業で「歯医者が近くにあり私は恵まれているんだ」と実感しました。フィリピンの学校の様子も知り、同じ年齢の人でも国が違えばこんなにも生活が変化するんだと思いました。この授業がなかったら、他の国の人がこんなに苦労していることを知らなかったので、知る事ができてよかったです。
 - 印象に残ったのは、子ども達の笑顔です。ブラシやタオルをもらった子ども達、歯の治療を受けた子ども 達はみんな笑顔でした。日本にいるとつまらないことで怒ったり拗ねたりしています。でもフィリピンの 人は日本より苦しい生活をしているのに、元気で笑顔でいられるのは素晴らしいと思いました。そしてそ の人たちの苦しい部分を支えている沢田さんはすごいなと思いました。僕はこれからは、インフラが整っ たこの国で安全に過ごせていることに感謝して過ごそうと思います。
 - ・ボランティアの「かきくけこ」を教えてもらい、とても印象に残っています。か…感謝、き…気配り、く…工夫、け…健康、こ…行動力を学びました。今回の授業で、ボランティアをして人を笑顔にしたいという気持ちが栗山さんと沢田さんからすごく伝わり、とてもボランティアがしたくなりました。
 - 今日の学習で人のために動く人がこんなにいるのかを知りました。だれかのために自分ががんばる事がす ごいなと思いました。だれかのため、日々考え、工夫して行うところがすごいと思いました。世界には色々 な人がいることも学べ、知る機会になりました。

◎終わりに

学習を始めた頃は、ヴァヌアツやフィリピンってどこにあるのかな?ボランティアって何をするのかな?とピンときていない子どもたちだったが、JDM の活動に触れ、「人のために自分はなにができるだろうか?」と考えるきっかけをいただいた。



今、子どもたちの中には人のために何かをしようという種が芽を出している。これからも"生きる中で、大切なこと"を学ぶ機会として、この学習を続けていきたいと考えている。

海外活動参加者感想文

岡崎 由依 (歯科衛生士)

歯科衛生士になってよかった



"どうして応募したの?"とよく 聞かれますが、正直言うと"やっ たことないから。"

という答えになるのかもしれま せん。

歯科衛生士としても未熟な私は 役に立たないかもしれないとも 思いながら、それでも自分がど こまでできるのか試したいと意 気込んで応募しました。

日本からフィリピンへ渡り、1 歩目。久しぶりの海外の匂いに 胸が躍りました。コロナ禍とい うこともあり、渡航前は不安で いっぱいでしたが、JDM メンバ ーは初めての参加者にも積極的 に声をかけてくださり、すぐに

安心できました。

島での診察は開始すること自体が難しく、安定した電力、水の供給がいかに恵まれた環境だったのかと思い知らされました。機材や薬液にも制限がある中、自分達がどこまでやるべきか、やれるのか。ベテランの先生や先輩たちも迷いながら診察する姿に胸を打たれました。カオハガン島に来なければこの感覚は味わえなかったです。歯科だけでなく医療についても深く考えさせられました。

メンバーは口を揃えて"私達は同じ立場。それぞれができることをすればいい。"そう言って暖かく迎えてくれました。その言葉通り、診察が始まると各々が自発的にキビキビと動き回って活動していました。人格的にも尊敬できるメンバーのみなさんと一緒に活動できて光栄に思っています。

活動内容は抜歯や CR、クリーニング、保健指導などがメインでした。歯科は特に子供に怖がられやすいです。しかし島の子はみんな人懐こく、愛らしい笑顔で言葉が通じないとしても私達に何度も何度も話しかけてくれます。それは JDM が積み上げてきた実績と信頼のおかげです。ここまで信頼を獲得してくれた団体だからこそできる活動内容なので、参加できたことに感謝しています。

最終日はこっそり星空を眺めてました。星に混ざって蛍が舞ったり、流れ星が見れたり、忘れたくない景色です。 医療に関してはまだ不足していますが、この美しい環境下で育つ子供たちは恵まれていると思います。その笑顔を 守る手助けが少しでもできていたなら嬉しいです。

"やったことがないからやってみたかった。"少し不純な動機だったと思いますが、応募しなければ島の子供たちの笑顔や尊敬できるメンバーにも会えなかったし、歯科医療について今一度深く考える

きっかけも得られなかったです。自分が選んだ歯科衛生士という職業の可能性が広がりましたし、また少し好きになりました。応募して本当によかったです。ありがとうございました。

木村 拓紀 (歯科医師)

歯科医師 1 年目の私に とって、今回のフィリピ ン共和国カオハガン島 での活動は驚きの連続 でした。

セブ空港に着き、カオハ ガン島へ向かうため港 へと向かう道中、車内か ら外を眺めていると、屋 台の甘そうなお菓子に 多くの子どもが目を光 らせていました。「どん な口腔状態の患者さん を目にすることになる のだろう…」と思いつ つ、船に乗り、カオハガ ン島へ。コロナ禍を経 て、久しぶりの JDM の 来島を心待ちにしてい た島民の方や、歯科医師 から逃げる素振りを見 せる子どもたちの出迎 えを受けながら島の中 を歩きました。台風被害



の爪痕が所々に残るも、それ以上に島民の皆さんの笑顔が印象的でした。

人材も物資も限られたカオハガン島において、日本では当たり前に行われる根管治療は難しく、萌出したばかりの大臼歯を抜歯する小児患者さんの多さには衝撃を受けました。リピーターの Dr の皆さんが、限られた環境下で立てられる治療方針は非常に勉強になりました。

また、日本での診療では滅多に経験することない言葉の壁を通して、「チーム医療の大切さ」を改めて感じました。 言葉が通じ無いだけで、患者さんに伝えることも、理解することも苦労ばかりでした。カオハガン島で暮らされている日本人の方や、英語の話せる島民の方々の通訳によって助けられました。日本では体験出来ないチーム医療を感じることが出来ました。

短期間でしたが、島民の方々や JDM のメンバーの皆さんのおかげで、貴重な経験をさせていただいたと思っています。

今回の活動で学んだことを日々の診療に活かし、成長した上で、またいつか、カオハガンでの活動に参加し、島民の方の歯科医療に寄与したいと考えています。

このような機会を与えてくださった澤田先生をはじめ、JDM の皆様に感謝申し上げます。

池本 美波 (歯科衛生士)

カオハガンでの経験を通じて



私が今回のカオハガン島でのボランティアに参加してみて、素晴らしい体験が出来ました。初めての、参加だったので凄く緊張していなりの方々がお互い協力し合いながらたくさん助けてもらいました。その為、とていい活動が出来たと思います。ボランティアを通して、コミンをはいるではいる。言語が伝わらないのではした。言語が伝わらないのではした。言語が伝わらないのではした。言語が伝わらないのではいる。

説明するのが大変でしたが、簡単 な単語や現地の言語を使ったり

して相手とコミュニケーションをとることができました。また、現地の方は優しく笑顔が素敵な方が多くて凄くお話してて楽しかったです。学校での歯科の保健指導をする際も、言葉の壁がありましたが、子ども達と楽しく歯を磨く練習が出来ました。最初は、なかなか説明しても、伝わらなかったですが、ジェスチャーをする事で通じるようになって保健指導が出来たのが嬉しかったです。このボランティアに参加したいと思いました。

難波 智津子(歯科医師)

三年前に申し込みして出発の寸前で コロナですべてシャットダウン。

もともと子供も少しずつ手が離れて 自分は何ができるのか、何がしたい のか模索してるとこだったので今回 の歯科ボランティア再開は待ってま したって感じでした。

参加してみると、もお、最高⊜いろ んな意味で最高。

診療は有り得ない人数で歯科医師としてどうするべきか考えさせられる毎日でした。いまでも考えてばかりです。それくらいの強烈な刺激でした。くたくたになってもそれを上回る癒やしは景色にご飯に島民にボランティア仲間。

また行きます!!!!



篠原 充里(歯科衛生士)



ボランティアに参加することで、観光では見 えない景色や気づきがありました。

歯科に関しては、悔しいと言う気持ちになりました。環境が整っていれば、言葉が通じれば、 もっと守れる歯があるのにな、とタラレバになってしまいますがそう思いました。

治療やクリーニングすることに加え、生えた ての永久歯は特によく磨くことの重要性や、虫 歯だけでなく、歯周病でも歯がなくなることな どの知識と、それを日々の歯磨きで防げること も同時に伝えることができたら良いなと思いま した。

日本に帰ってきて仕事に行くと、歯科の環境が整っているありがたみを感じ、この環境の中でできる限りのより良い処置を患者に提供しようという気持ちになりました。

また、島民の明るさに触れたり、カオハガン 島の美しい景色や穏やかな時間の中にいたりす ると嫌なことがスーッとなくなるような気持ち になりました。ボランティアとして歯科を提供 しに行きましたが、実際に行ってみると、与え るものよりも与えられるものの方が多かったと 思いました。

そして、今回共にボランティアに参加したド

クター、衛生士、学生のみなさんは優しい方々で、支えられることが多く、とても感謝しています。

井上 七穂(歯科衛生士)

はじめに、私がボランティアに参加しようと思ったのは、歯科のボランティアを探していてコレだ!と思ったからです。

お年寄りの車イスを押すボランティアや、 介護のボランティアには、参加した事があ りますが、

もっと人の役に立つことがしたい!と思いボランティアを探していました。

それにしても、10 万円のお金を払い参加 する事は、少々、自分にはハードルが高く 感じましたが、滞在中は、何ひとつ困る事 はなく健康に有意義に過ごせ心配はあり



ませんでした。

まず、初日の前夜に到着し、余裕がないように思いましたが、集合時間に遅れる等、道に迷い困る事もなくスムーズに毎日を過ごしました。

その分、「自分は、何をやればいいか?」と常に考え行動ができ、積極的に参加でき良かったと思います。 現地の人たちは、治療してほしいと大勢集まっていて驚きました。

その治療というのは、CRと抜歯のみだというので、どういうことか?と思いましたが、すぐに意味が分かりました。

若いのに、虫歯で抜歯をしなくてはいけない人が多いのです。 「もったいない」「かわいそうだな」と思いました。 しかし、先生達に、治療をして貰える事は良くなっている事だし、生活を向上できるのだと思います。

その事こそが、ボランティアをする意義なのだ!と参加してハッキリ分かりました。

私は、ただの歯科衛生士ですが、先生方の仕事は、人の役に立つ良い仕事だなと、日々の診療では 思わないのに、つくづく思いました。日本は、患者さんが望む高度な治療が出来ます、

衛生士として、その患者さんに、高度な治療と、何を提供するべきか?と改めて考えました。

澤田先生を筆頭に先生方が、設備の揃わない所で、治療をしている中、色々と勉強させて頂きました。

日本の患者さんにも、80歳で20本の歯を残し、高度な治療をしようと、しまいと有意義な生活を送って貰う事が目的なのだと、衛生士として視野が広がりました。

また、ボランティアをしたいという思いです。

次の、ボランティアに参加出来ないかと悩んでいる位です。

有難うございました!

泉本 明子(歯科衛生士)



今回、私が参加したきっかけは 友人から JDM の活動の話を聞いたからです。すごく興味が湧いて、よし!私も行くぞっと思って翌年 2020 年に参加しようとしていました。しかし 2020 年はコロナが流行して、この活動自体も中止になってしまいました。コロナ禍で世界中が不安な中、私も日本で一般歯科の仕事をしながら、毎日をただ健康でいられるよう祈って過ごしていました。

そして昨年 2022 年 11 月活動 が再開し、私も今年 2023 年の 3 月やっと参加することが出 来ました。

好奇心で参加しましたが、実際に活動した感想は、人の為に何かをするってうれしいことなんだ、と思いました。日本で働いている時も、もちろん患者さんのことを考えて診療していましたが、どこか当たり前になっていたと思います。特にコロナ禍はどうしても自分のことに意識が向きすぎてしまい、周りへの配慮が足りなかったかもしれま

せん。

カオハガン島で過ごした 5 泊 6 日は、チームメンバーとの初めての出会い、夜の海、島での生活、日本とは違う診療環境、ビサヤ語、自然、きれいな空、鳥の鳴き声、と私にとって非日常で、とても充実した日々でした。新しい環境で過ごそうと思うと、やっぱり 1 人では不安もあり、自然と周りのことを常に考えていました。暗い夜道、懐中電灯ひとつで部屋のコテージまで帰る時、木々のカサカサいう音や、風の音、虫の飛ぶ音など、周りの色んな音が気になって、早足で部屋に戻りました。扉を開けるとほっとして、笑ってしまいました。もう十分大人なのに、1 人だと怖いんだ、と思って(笑)

1人では何も出来ないし、誰かと繋がることの安心感、人と人との繋がりを強く感じる良い経験になりました。 島民の方たちの笑顔も素敵で、大や猫もどこか幸せそうに見えて、本当に豊かな島だと思います。

JDM の方々がこの活動を続けられていて、うれしく思います。私も心ばかりの寄付と、出来る時は活動にもまた参加したいです。

本当にありがとうございました。

原口 明奈(歯科衛生士)

カオハガン島歯科ボランティアを終えて

私が今回初めてこのボランティアに参加しようと思ったきっかけは、今回一緒に参加した友人からの誘いがきっかけでした。以前から、歯科の海外ボランティアには興味はありましたが、実際に行動に移すことにハードルがあり参加していませんでした。今回参加するにあたって、歯科衛生士としての経験も浅い私が実際に島に行って何ができるだろうという不安がとても大きかったです。しかし、澤田先生を始め倉橋さん瀬野先生や一緒に参加したボランティアの仲間がお互いに協力しながら助け合い5泊6日を過ごすことができ、本当にメンバーに恵まれたと感じました。また、誘ってくれた友人に感謝の気持ちでいっぱいです。



島での歯科治療は日本での治療とは全く違い、ライトもユニットもない中での治療でした。その中でも、限られた環境で知恵を振り絞ってやっていくことにとてもやりがいを感じました。また、クリーニングをしている中で気づいたことは、カオハガン島の島民と他の島民との口腔内の違いです。カオハガン島の島民は他の島民よりはるかに口腔内が清潔でした。カオハガン島の子供たちは幼い頃から \mathbf{JDM} によるブラッシング指導がされており、それが大人から子供に受け継がれていると思いました。このことから、改めて \mathbf{JDM} の活動の重要性と幼いころからのブラッシング指導や歯科に関する知識が本当に大切だとわかりました。

今回、JDMのカオハガン島での歯科ボランティアに参加して本当に良かったです。Wi-Fi もなくスマホも使えないけれど、そんなことがどうでも良くなるくらい素敵な景色と素敵な人々の笑顔が島にはありました。こんなに良い経験ができて幸せでした。一つ後悔するとすれば、もっと英語で島の人たちとコミュニケーションが取れたらよかったです。次回参加するまでに英語を勉強したいと思います。

三好 京子(歯科技工士)



今回、この活動に参加できたことは 正にミラクルでした。技工士になる よりずっと前から海外には興味があ りましたが、ご縁がなく、今回やっ と出会えたチャンスでした。まず、 技工士のボランティア募集というも のに初めて出会って、「行くしかない」 と思いました。募集要項を見てみる と、デンチャーの製作、調整業務と あり、今まで自分がメインでやって きた業務と一致。そこでまた、「行か ないといけない」と思いました。し かし、実際に参加するまでには、い つも仕事の依頼をしていただいてい る先生方にお休みをもらわなければ ならず、周りの協力と理解がなけれ ばいけません。仕事が無くなるかも、 と不安もありましたが、私はカオハ ガンに行かなければならなかったの で、思い切って「休ませて!」とお願 いしました。すると、みなさん「すご いね!行っておいで」「でも絶対に帰 ってきてね」と言って受け入れてく れました。私は「帰ったらどんな活 動をしたか必ずご報告いたします」 と約束しました。

島では、限られた資材と環境の中で

はありましたが、今まで自分が一所懸命に頑張って備えてきた能力を活かし、患者さんに喜んでもらえて本当によかったです。現地の子供達に通訳を頼んで、デンチャーの調整をしたり、「またきてね」と島の人に言ってもらえて、 仕事が楽しいと久々に思いました。

日本に帰ってからは、約束通り先生方に「こんなことやってきました!」と報告させていただきました。みなさん、 興味深そうに聞いてくださいました。海外ボランティアに興味のある人は意外とたくさんいる気がします。私は今 回の活動を通して、技工だけではなく、海外ボランティアについても周りに発信していけたら良いなと思っていま す。

池本 花梨 (歯科衛生士)

知人がこのボランティアに参加するため一緒に行かないか、と誘われて人生で初めてのでのボランティアに参加しました。

日本とは違って水が貴重で電気がないコテージもあると聞いていて、そんな環境で大丈夫かなととても心配でした。 いざ行ってみると、そんな心配とは裏腹に毎日早起きをして朝日を見て、天の川がはっきり見える星空を堪能する くらい楽しめました。

歯科に対する知識がほとんどありませんでした。活動していて何をすればよいか分からずに立ち尽くすだけの時もありましたが、日がたつにつれできることが増えていきました。忙しい中いろいろと指導してくれ、声掛けもしてくれ、何よりみんなが楽しんで活動ができるそんな良いメンバーに恵まれました。その中で活動できて良かったです。

英語が苦手で、意思疎通がうまくできませんでしたが島民の明るい笑顔に癒されました。ただ、もっと英語を勉強 してもっと話せたらどんなに楽しかったかなと少し後悔しました。



熱い想いを持ったメンバーと活動できたこと、参加したからこその経験ができたと思います。参加して本当に良かったです。

自分がやれることは多くないけど、また参加して少しでも力になりたいと思える活動でした。

斎藤 あすか (歯科衛生士)

今回カオハガン島へ歯科衛生士として参加させて頂きました。

活動中では、日本と比べて多くの人に虫歯がたくさんあり歯石もたくさんついて歯磨きの甘さが目につきました。 なによりも衝撃的だったのが子供達の第一大臼歯の崩壊が多くみられ抜歯がしてあり、日本で治療を受けると保存 できるような歯も現地では抜歯をすることが当たり前なことに驚きとショックを受けました。

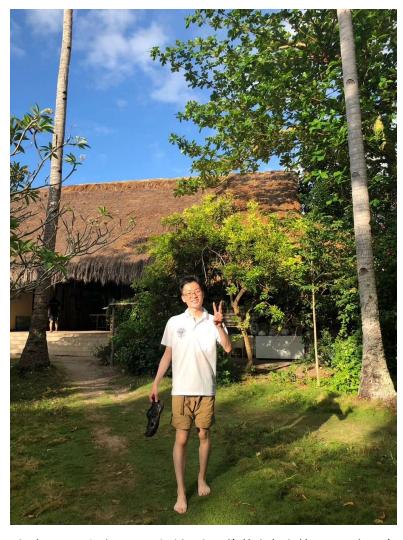
ですが、他の島の方達と比べればカオハガン島の方達の口腔環境は良好な方が多くみられ、この活動の大切さを感じることができました。

私は参加するまで緊張と不安でいっぱいでしたが最高のメンバーに恵まれ、チームワークも良くとても楽しく活動 することができました。忘れられない経験ができました。ありがとうございました。



田辺 友基 (ボランティア)

私はこの年の2月ついに念願の大学合格を果たし た。二浪もしてしまったために多くの人に迷惑をか けてしまった。この2年間応援してくれた人たちに 合格の報告をさせていただいていたら、とある1人 からこのカオハガンについて知らされた。その知ら された内容は自然豊かな外国の小さな島で、歯の治 療を受けられない方々に無料で歯の健診をしてあ げると言う活動だった。資格を何も持っていなくと もお手伝いとして活動できるらしい、その上に英語 で意思疎通をするとのことであった、英語が苦手な 自分にはもってこいだと思った。その活動も英語を 使って話すこともそうだが、その素晴らしい活動に 参加されている人たちと話さしていただくことは 自分の後学のためになるだろうと参加させていた だいた。知り合いのいない所でやっていけるだろう かという懸念は、参加していた皆さんが本当にいい 人ばかりであったことですぐに晴らされた。こんな 言い方もなんだが、お金を払って人のために働くよ うな人たちが悪い人のはずがないのだ。空を飛び波 に揺られてカオハガンに夜につくと歓迎を受けた。 この島のオーナーは御高齢だが行動的で優しそう な方だった、島の自然と共に生き素晴らしい人生を



送っているとのことだ。ボランティアの活動は到着した次の日からさせていただいた、資格を何も持っていない自分でもできることは色々あり、普通に過ごしていてはできない経験をさせていただいた。勇気を出して参加して良

かったとしみじみと思った。診察中に窓の外から現地の子供達が物珍しさからか眺めて来るのだが、言葉もやっていることも分からないのに活動を見に来るその好奇心旺盛さには学ぶものすらあると感じた。特に子供たちは言葉が通じずとも何かを伝えようとしてくれてその前向きな姿勢は可愛く、そして真似さえしたい姿勢であると思えた。カオハガン島は自然が身近であることに加え、犬猫が多く動物好きにはたまらない、楽園のような場所だった。ちなみに、基本全ての犬猫に予防注射をしていて病気になる心配はしなくていいらしい、それに人懐っこい子が多く可愛いの一言に尽きる次第だった。他には、さまざまなものにお酢をつけるなど普段日本にいてはしない取り合わせのものをいただけて、食べ物に関しても素晴らしい経験をさせていただいたと感じる。この旅を通じて得たものは本当に多い、拙い英語でも恥ずかしがらなければいつかは伝わるし、むしろ英語が喋れない子にも身振り手振りで意思疎通をすることができると知った。その中でも特に大きな得たものと思ったのは、私たちの日本において福祉が身近な存在であることが本当にありがたいことだと思えたことだ。当たり前にあるものにありがたさを感じることは少ないが、それが当たり前にないところを見てみると我々は恵まれているのだなと再確認させられ、これからその当たり前に感謝をしていくことができる。

自分の世界観が少し変わる素晴らしい経験をさせていただいた。また機会があればこの素晴らしい活動に参加したいと思っている。

鈴木 美乃里(歯科衛生士)

(JDM デンタルミッションに参加するきっかけ)

歯科衛生士 5 年目になり、毎日訪問診療にでて歯科衛生士の業務を行っていました。

日々業務が、どうやっ たら患者さんのために なるのか、、私の知識と 技術で果たして患者さ んのためになっている のか?と、悩むことが 増えてきました。

新卒から、同じ職場に 勤めていることもあ り、外部の方とも考え を共有してみたいとい うこと。

もっと誰かのために歯 科衛生士の資格を活用



できないかと考えた時にネット検索で JDM の活動を見つけました。

ホームページにある報告書には、キラキラした子どもたちと島民が写っていて、すぐに応募をしました。

(フィリピンにいくまで)

ミッション当日まで、ドキドキしていましたが

飛行機の手配や、言語の違いについて、服装や、専用 T シャツの準備、空港での待ち合わせに関してまでも 澤田先生はじめ、倉橋さん、瀬野先生のサポートにより、不安な気持ちはなく当日を迎えることができました。

(カオハガン島での活動)

暑い暑い環境の中で、膨大な数の患者さんの診察を目の当たりにしました。 そして自分もできることを、チームのみんなと協力しながら率先して行いました。

生えてきたばかりの永久歯が、カリエスによって崩壊しているところをみた時は、驚きと共に悲しい気持ちにもなりました。

そして歯磨きの大切さ、歯磨きを教育する環境の大切さを改めて、深く感じました。

最終日に倉橋さんが

他の島とくらべて、JDM が活動を繰り返し行っているカオハガン島の子供達は、歯が綺麗だとおっしゃっていました。

本当に、その通りだなと思いました。

スケーリングをしていても、永久歯がたくさん揃っている 15-18 歳くらいの子がたくさんいました。

これは、この活動をし続けている、継続していることが、とても大きく影響をしているのだと感じ、今回このような 経験を一緒にさせてもらえたことを心から嬉しく思いました。

(カオハガン島の生活)

にわとりと犬の鳴き声で起きることが多かったです(笑)太陽がのぼると共に、島民の活動はスタートしていました。 6時ごろには子供達がリュックを背負って、学びに行くため隣の島に歩いて行っていました。

中学校はとなりの島にしかないようで

学校まで歩いていき、海が満ちているときは船を使っていくと話してくれました。

私は、それを聞いたとき、その姿を見た時、すごく大変だなと思いました。

ですが、彼女たちに聞くと、すごく楽しそうで、大変だけど学べることが楽しいと言っていました。

将来、キャビンアテンダントと歯医者になりたいと夢を教えてくれました。

本当に本当に笑顔が素敵な子供達でした。

また JDM の活動で会いに行くと約束をしました。

(JDM の活動)

今回の活動を通して、たくさんのことを学び、経験させていただきました。

歯科衛生士として、まだまだやるべきことが沢山あると感じることができた経験でした。

やはり、いちばんは最高の出会に感謝です。

澤田先生、倉橋さんはじめ、初参加の最高のメンバーと出会うことができました。

それぞれ違う場所で歯科衛生士として働いていますが、一つのことに一緒に真剣に取り組めたことが、一番の宝物になりました。

本当にありがとうございました。

全ての皆様に感謝してもしきれません!

また絶対に参加したいです。

2023年度 海外活動予定

参加のジャンルは、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士、一般ボランティアとなっております。現地でのお仕事(活動)は、医療活動に限らず多種多様ですので、どなた様でもご参加可能です。 皆様のご参加をお待ちしております。

参加申し込みは当会ウェブサイトからお願いします。

http://www.japandentalmission.org

バヌアツ共和国

チーム名	日程	締切日
7月ペンテコスト島	2023年7月13日~18日	2023年6月1日

フィリピン共和国

チーム名	日程	締切日
11月カオハガン島	2023年11月1日~5日	2023年10月8日
3月カオハガン島	2024年3月19日~14日	2024年1月27日

^{*}状況により予定は変更します。

参加費用

バヌアツ共和国

フィリピン共和国

科目	金額	金額	
航空運賃 * 1	約25万円	約12万円	
滞在費	現地宿泊費、食費等		
海外旅行傷害保険代	希望者のみ各自負担		
ユニフォーム代 * 2	3千円	3千円	
合 計	約25万円	約12万円	

*1:航空運賃は、時期により変動します

*2:持っていない方のみ

ジャパン デンタル ミッションについて

Year	沿革
1982	歯科医の沢田が理事を務めていた社団法人南太平洋協会を通じてバヌアツ共和国の事を知る
1983	眼科医の岩崎氏と共に"バヌアツに医療を送る会"に歯科医師として沢田が、バヌアツ共和国で活動を開始
•	沢田は、一人で活動を続けていたが、現地の人たちの口腔内の機能回復を目的として歯科技工士に同行してもらう事になり、歯科衛生士や一般のボランティアへと参加者層が広がり参加者が増えてくる事となる。
1995	活動内容の拡大のため「NGO南太平洋に歯科医療を育てる会」を設立
1996	フィリピン共和国カオハガン島のオーナーである崎山克彦氏からの依頼を受け、カオハガン島での歯科医療活動を開始
	バヌアツ共和国に年2回、フィリピン共和国に年2回の活動を継続している。
2003	組織をNPOとし、名称を「NPO法人ジャパン デンタル ミッション」に変更
2004	バヌアツ共和国保健省とJDMの現地における歯科医療サービスについて合意、調印を結ぶ。
	現在に至る

ジャパン デンタル ミッション活動方針

1. 歯科医療活動

●バヌアツ共和国における歯科医療活動

ペンテコスト島において、中心となる病院を拠点として診療活動を行っています。 また、病院の周辺の小・中学校に行き、歯科検診及びブラッシング指導を行っています。

●フィリピン共和国における歯科医療活動

カオハガン島において、簡易診療所を中心に診療活動を行っています。 島内にあるカオハガン幼稚園・小学校に歯科医師・歯科衛生士・ボランティアのチームで 歯科検診並びにブラッシング指導や染め出しを行い、歯の磨き方を指導しています。

2. 文化交流活動

●絵画などの交換

バヌアツ共和国、フィリピン共和国の両国に日本から画用紙や絵の具、クレパスを寄贈し、子供たちに絵を描いてもらいます。その絵を日本に持ち帰り絵画展を様々な所で行っています。

また、白地の鯉のぼり、凧、羽子板などに日本とバヌアツの子供たちが絵を描き、交換しました。 その他、日本の伝統的文化を基に交流を行っています。

3. 生活向上活動(派遣国の生活のQOLがより向上するための活動)

●文房具、スポーツ用品の寄贈

歯ブラシ、文房具、スポーツ用品などの寄贈も行い、現地の子供たちの識字率の向上、 学業支援や健康促進を考えています。

●運動会の開催

フィリピン共和国カオハガン島において、島民たちとのふれあいの意味も込めてJDMスタッフと一緒に運動会を 行っています。

4. 青少年育成

ボランティア活動に参加した若い学生達はプロのメンバーと共に活動し、助け合い、話し合ったりするうちに積極性や活力が付き、彼らの自己成長を養う為のお手伝いをしています。

協力者名簿

- (株)アド・ダイセン
- アベ・ラベリング(株)
- オーエム歯材(株)
- 大阪歯科大学 口腔衛生科
- 大阪市立開平小学校
- 大阪市立昭和中学校
- 大阪市立高津小学校
- 大阪市立玉造小学校
- 大阪市立中央小学校
- · 大阪市立中大江小学校
- · 大阪市立南大江小学校
- 大阪市立南小学校
- 大阪船場ロータリークラブ
- 大阪南太平洋協会
- 大阪府歯科医師会
- 尾崎歯材(株)
- 川西市歯科医師会
- 関西国際交流団体
- 関西学院中学部
- 清原(株)
- 共栄社化学(株)
- グラクソ・スミスクライン(株)
- ・ 国際ソロプチミスト大阪-梅田
- コクヨ S&T (株)

守下 雅美

サクラクレパス(株)

- 沢井製薬(株)
- 笹野電線(株)
- 澤田歯科
- サンスター(株)
- (株)システムつう
- (株)ジャックス
- シンク(株)
- 甚田会計事務所
- スホ[°]ーツネットワークシ ヤハ[°]ン
- 住之江歯科医師会
- スモカ歯磨(株)
- セイコーエプソン(株)労働組合
- ・ 全日本ブラシ工業協同組合
- 大日本除虫菊(株)
- 大平工業(株)
- · 太洋旅行(株)
- 嶽北歯科
- タナベスポーツ(株)
- ・ 株式会社ツサカ
- つるや(株)
- トキワ(株)
- ・ 有限会社トリビ
- 南総工業(株)
- 西澤歯科医院
- ・ クリエイト(株)

横山 瞭一

- 日本歯科医師会生涯研究課
- 白水貿易(株)
- ハグルマ封筒(株)
- · (有)ハマダデンタルサプライ
- 樋口歯科医院
- 平田歯科医院
- · 不二印刷(株)
- ・ ヘーブリテック・アイコニックス・ヘーンチャース (株)
- 蛍印刷(株)
- モリタ(株)
- 八尾市立西山本小学校
- ・ 八尾ロータリークラブ
- ・ 八千代オート(株)
- ユー・エフ・オー(株)
- 陽春園(株)
- 吉竹歯科医院
- DENTRADE
- · Greenpath Corporation
- JICAバヌアツ支所
- · NPOセンター
- · TKX(株)
- · UHA味覚糖(株)
- ナカガワ(株)
- デンタルプロ(株)
- ・ 共和メディカル株式会社

本年度寄付を頂いた皆様

50音順

東定子石原典子斧原周子片岡清夫金本裕光小林トヨ子沢田和義館野征子平田實藤本茂子馬淵ひづる三鼓真司

34

